

津波対策 – 津波の襲来情報を得るための潮位計及びその運用 –



ワーキングの詳細
はこちらから

論点No.39

東海第二発電所の潮位計は海岸の取水口付近に設置されているが、中央制御室においてどの程度の高さの津波が迫っているか判断するためには、もっと離れた沖合で潮位を観測する必要があるのではないか。

第21回ワーキング
(2022.7.29) で議論

ワーキングチーム検証結果

津波の襲来の状況は、**公的機関の津波情報を適切に利用しつつ、原子炉建屋屋上に設置された津波・構内監視カメラにより、中央制御室にて把握できることなどを確認。**

ワーキングチーム検証結果（抜粋）

○襲来する津波の監視と対応

- 津波の襲来の状況は、中央制御室にて**公的機関の津波情報と津波・構内監視カメラにより把握**
- 沖合からの津波襲来の様子は、原子炉建屋屋上及び防潮堤上部の津波・構内監視カメラで監視可能
- 原子炉建屋屋上は標高+64mの高所であり、**沖合（水平線）約28km先まで視界に収めることができる。**
- 津波・構内監視カメラの映像は中央制御室で確認することができ、**昼夜を問わず監視が可能**
- 公的機関（気象庁等）からの津波情報は中央制御室でFAXによる受信、PC及び電話にて確認し、津波襲来の状況を把握
- なお、襲来した津波による影響（施設の被害や引き波による取水性の悪化）は、津波・構内監視カメラに加え、潮位計及び海水の取水ピットの水位計により把握が可能である。

津波・構内監視カメラの主な仕様

	津波・構内監視カメラ
外 観	
カメラ構成	可視光及び赤外線
ズーム	デジタルズーム4倍
遠隔可能	水平可動：360°（連続） 垂直可動：±90°
夜間監視	可能（赤外線カメラ）
耐震設計	Sクラス
供給電源	所内常設直流電源設備
台 数	原子炉建屋屋上3台、防潮堤上部4台



監視カメラの視界のイメージ